



追加型投信/海外/その他資産(バンクローン)

ファンド情報提供資料/データ基準日:2016年9月12日

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ <円コース><豪ドルコース><メキシコペソコース>(毎月分配型) 【愛称:スマートスター】 分配金引き下げのお知らせ

平素より、「三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年9月12日に第35期(2016年8月13日~2016年9月12日)の決算を迎えた<円コース>(毎月分配型)、<豪ドルコース>(毎月分配型)および<メキシコペソコース>(毎月分配型)(以下1頁から3頁において、当該3通貨コースをまとめて「各通貨コース」ということがあります。)の各通貨コースについて、当期の分配金を以下の通りといたしましたことをご報告いたします。

今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

各通貨コースの分配金と基準価額(2016年9月12日)

通貨コース名	分配金(1万口当たり、税引前)		基準価額 (1万口当たり、分配落ち後)
	第35期	前期比	
<円コース>(毎月分配型)	35円	▲10円	8,847円
<豪ドルコース>(毎月分配型)	40円	▲20円	7,364円
<メキシコペソコース>(毎月分配型)	50円	▲20円	6,228円

分配金実績(1万口当たり、税引前)(第30期~第35期)

<円コース>(毎月分配型)

決算期 日付	第30期 2016年4月11日	第31期 2016年5月11日	第32期 2016年6月13日	第33期 2016年7月11日	第34期 2016年8月12日	第35期 2016年9月12日	設定来合計
分配金	45円	45円	45円	45円	45円	35円	1,475円

<豪ドルコース>(毎月分配型)

決算期 日付	第30期 2016年4月11日	第31期 2016年5月11日	第32期 2016年6月13日	第33期 2016年7月11日	第34期 2016年8月12日	第35期 2016年9月12日	設定来合計
分配金	60円	60円	60円	60円	60円	40円	1,960円

<メキシコペソコース>(毎月分配型)

決算期 日付	第30期 2016年4月11日	第31期 2016年5月11日	第32期 2016年6月13日	第33期 2016年7月11日	第34期 2016年8月12日	第35期 2016年9月12日	設定来合計
分配金	70円	70円	70円	70円	70円	50円	2,290円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通しなしいし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 米国バンクロンファンド 通貨選択シリーズ

<円コース><豪ドルコース><メキシコペソコース>(毎月分配型)【愛称:スマートスター】

分配金引き下げについて

各通貨コースについて、基準価額の水準、配当等収益や市況動向に加え、分配原資も減少傾向にあること等を総合的に勘案し、P1の図表の通り分配金を引き下げることにいたしました。

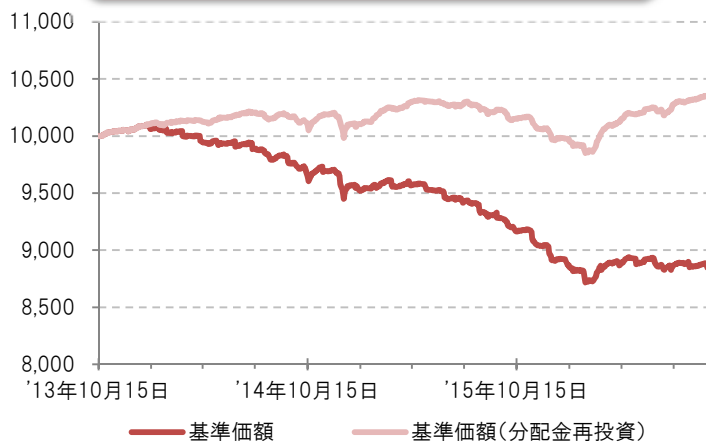
各通貨コースのうち、為替ヘッジを行っている<円コース>(毎月分配型)の基準価額(分配金再投資)は、米国バンクロンの利子収入・売買損益等が為替ヘッジのコスト等の影響を補い、設定来でプラスの水準で推移してはいるものの、2016年8月31日時点の基準価額は、8,876円となっております。

また、それ以外の二つの通貨コースについては、米国バンクロンの利子収入・売買損益等が各対象通貨の対円での下落による影響を補いきれず、設定来でマイナスの水準と軟調な推移となっており、2016年8月31日時点の基準価額は、<豪ドルコース>(毎月分配型)が7,346円、また<メキシコペソコース>(毎月分配型)は6,277円となっております。

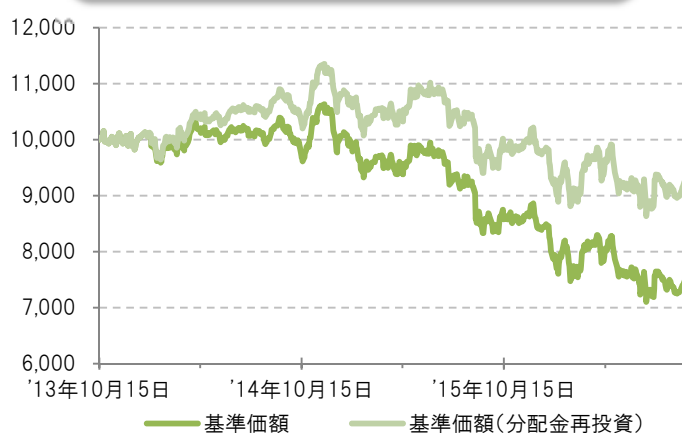
このような状況を鑑み、各通貨コースの基準価額の水準、配当等収益や市況動向に加え、分配原資の状況等を総合的に勘案し、分配金の水準を下げることにより信託財産の成長を図りながら収益分配を行うことが投資家の皆さまの中長期的な利益につながると考え、分配金の見直しを行うことにいたしました。

基準価額の推移(期間:2013年10月15日(設定日)~2016年9月12日)

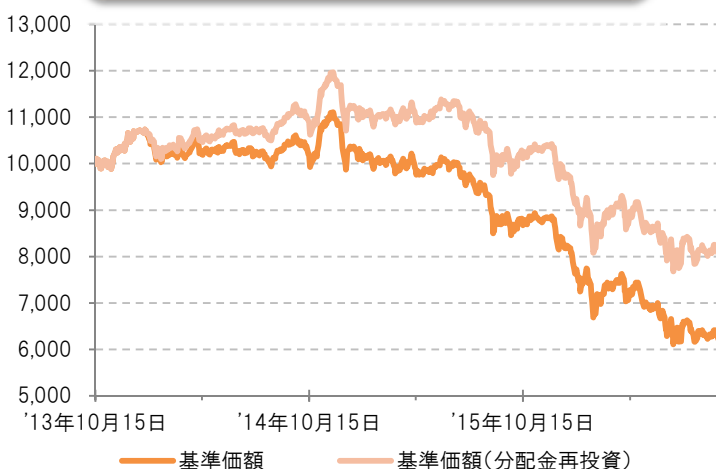
<円コース>(毎月分配型)



<豪ドルコース>(毎月分配型)



<メキシコペソコース>(毎月分配型)



■ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。■ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。■ 上記は過去の実績・状況です。本見通ししない分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日を10,000として指数化しています。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ

<円コース><豪ドルコース><メキシコペソコース>(毎月分配型)【愛称:スマートスター】

2016年初来の投資環境、運用状況について

【投資環境】

米国バンクローン市況

2016年初来の米国バンクローン市況は、世界経済に対する懸念の高まりや原油価格の下落等を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり下落して始まりましたが、その後原油価格の反発や概ね堅調な米経済指標等を受けて投資家のリスク回避姿勢が後退し、上昇に転じました。6月には英国のEU(欧州連合)離脱選択を受けて軟調に推移する局面も見られましたが、世界の主要中央銀行が緩和的な政策を継続するとの見方が広がったこと等を背景に投資家心理が改善し、堅調に推移しました。セクター別では、金属・鉱業、エネルギーなどが他を上回るパフォーマンスとなりました。一方、食品・飲料、消費財などは相対的に冴えない結果となりました。

外国為替市況

2016年初来の外国為替市況は、日銀の追加金融緩和観測の後退や投資家のリスク回避姿勢の強まり等を背景に、大半の主要通貨に対し円高が進行しました。

【各通貨コースの運用状況】

<円コース>米ドル建てバンクローン市況が上昇したことや米ドル建てバンクローンの利子収入を享受したこと等が寄与し、基準価額(分配金再投資)は上昇しました。

<豪ドルコース>米ドル建てバンクローンの利子収入や為替取引によるプレミアムの享受および米ドル建てバンクローン市況が上昇したこと等が寄与したものの、主として円高/豪ドル安となったことが影響し、基準価額(分配金再投資)は下落しました。

<メキシコペソコース>米ドル建てバンクローンの利子収入や為替取引によるプレミアムの享受および米ドル建てバンクローン市況が上昇したこと等が寄与したものの、主として円高/メキシコペソ安となったことが影響し、基準価額(分配金再投資)は下落しました。

(ピムコのコメントより三菱UFJ国際投信作成)

今後の見通し、運用方針について

米国では、賃金と住宅価格の上昇が続く環境下、米国経済の約7割を占める個人消費が牽引し、緩やかな景気回復が続くと想定されます。一方、バンクローンやハイイールド債券の発行体(貸付先)である米国企業の財務状況はエネルギー等の資源関連セクターを除いて概ね健全な状態にあります。

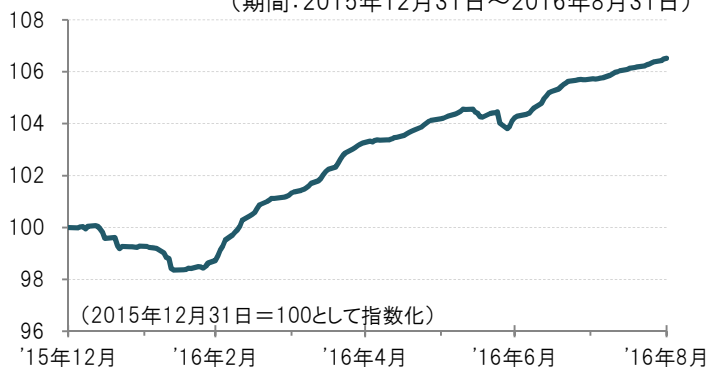
世界的に低金利環境が続く中で、ファンダメンタルズが健全で、安定的なインカムの獲得が期待できるクレジット資産への投資妙味は高いと見ています。多くのバンクローンには担保が設定されデフォルト時の弁済順位が高く、デフォルト時の損失額が通常の債券と比較して小さいと考えます。また、バンクローンは相対的に高い利回り水準にありながら、通常の債券と比較して金利変動による影響を受け難いという特性があります。そのため、価格変動幅を抑えながら相対的に高いインカムを獲得したいと考える投資家からの需要が見込まれます。

こうした環境下、長期的なファンダメンタルズに着目した慎重な銘柄選択および損失の軽減が最も重要であると考えており、引き続き、強固な資本構成を有し、高い参入障壁や堅実な成長性によって事業基盤が安定している比較的信用力の高い銘柄を中心に投資を行う方針です。

(ピムコのコメントより三菱UFJ国際投信作成)

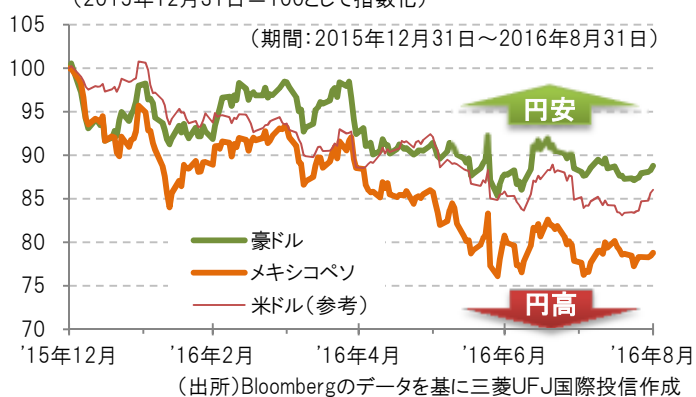
米国バンクローン指数の推移(米ドルベース)

(期間:2015年12月31日~2016年8月31日)



対円為替(豪ドル、メキシコペソ)の推移

(2015年12月31日=100として指数化)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通しなしい分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。■ 計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ

<円コース><豪ドルコース><メキシコペソコース>(毎月分配型)【愛称:スマートスター】

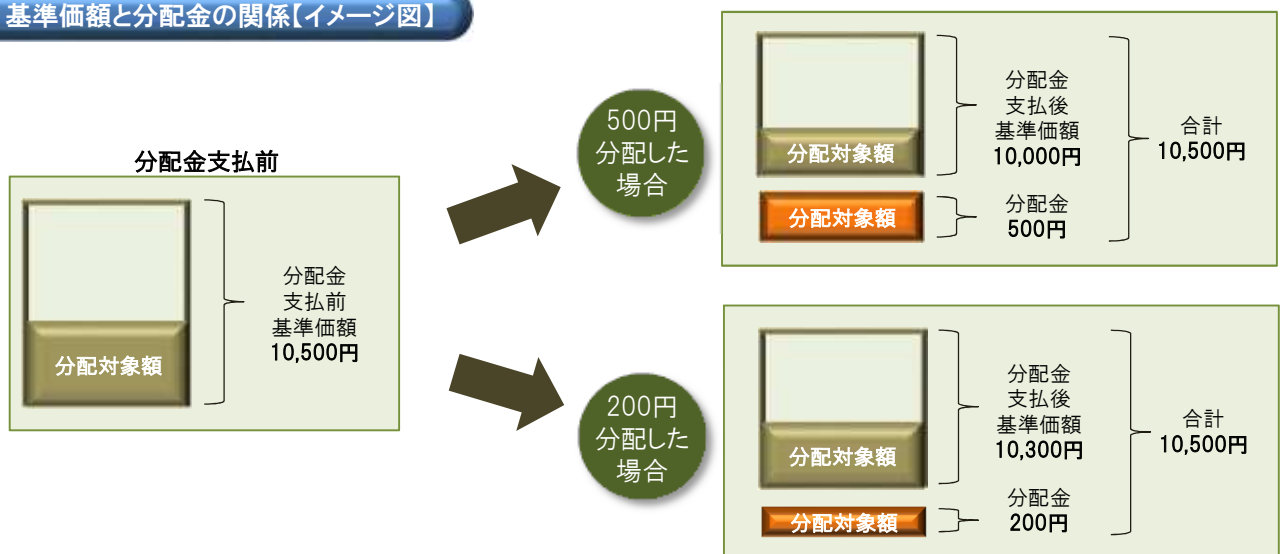
Q. 1 分配金を引き下げた分は、どうなるのですか。また、基準価額への影響はありますか。

A. 分配金を引き下げた分は、ファンドの純資産として残ります。したがって、分配金支払い後の基準価額は、分配金を引き下げた分、下落幅が小さくなります。

投資信託の分配金は預貯金と異なり、投資信託の純資産から支払われます。つまり、分配金はファンドの元本と別に管理されているわけではなく、ファンドの資産の一部として運用されています。そのため、分配金を支払うと、その分資産が減り、基準価額の下落要因となります。

分配金を引き下げた場合、分配金を引き下げた分は、ファンドの純資産として残ります。したがって、分配金支払い後の基準価額は、分配金を引き下げた分、下落幅が小さくなります。

基準価額と分配金の関係【イメージ図】



上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありません。

Q. 2 今後、分配金を変更することはありますか。

A. 今後の分配につきましては、基準価額水準や市況動向等を総合的に勘案して決定いたします。また、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

今後の分配につきましては、引き続き分配水準の安定性に配慮しながら、分配方針に従い、基準価額水準や市況動向等を総合的に勘案して分配金を決定いたします。

投資信託の分配は、利子収入、債券や為替の値上がり益の合計額および過去の収益の繰越分(分配を行わなかった分)などを収益分配原資として行います。したがって、これらの状況の変化により分配金額は変わることも、あるいは支払われないことも考えられます。

様々な要因により分配原資総額は変化いたしますので、将来の分配金額については、あらかじめ一定の額をお約束できるものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

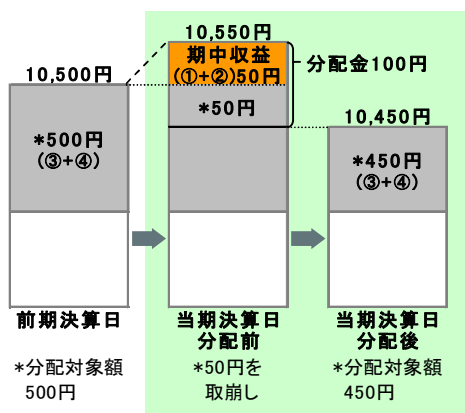


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

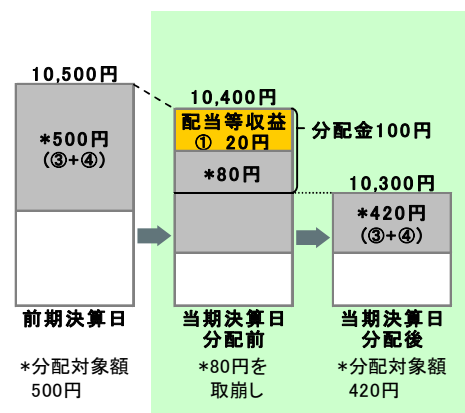
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



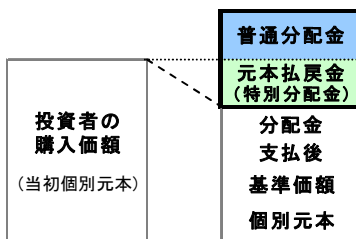
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

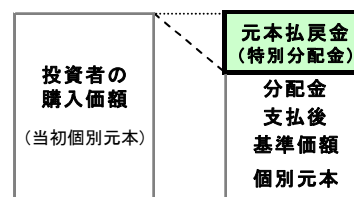
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

購入時手数料に関する留意事項

お客さまにご負担いただく購入時手数料の具体例は以下の通りです。販売会社によっては金額指定、口数指定どちらかのみのお取扱いになる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

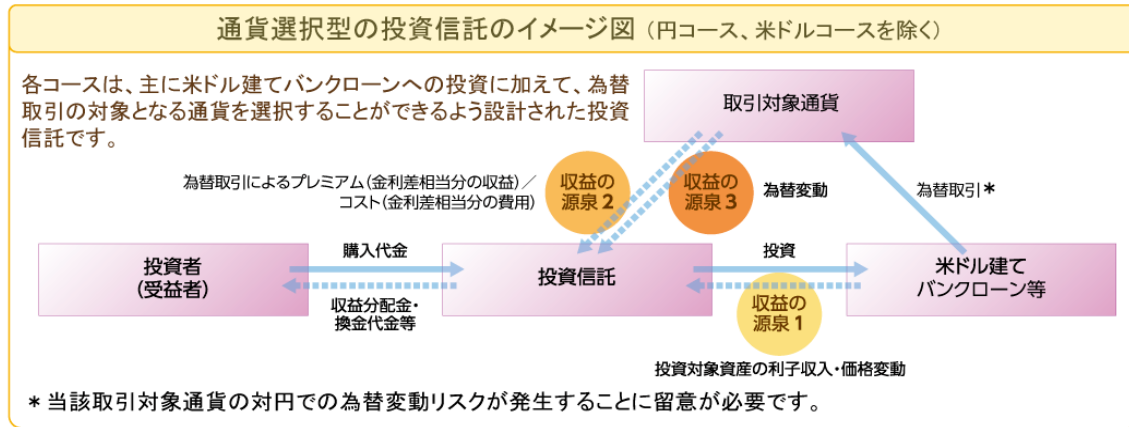
[金額を指定して購入する場合]

購入金額に購入時手数料を加えた額が指定金額となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定でご購入いただく場合、100万円の中から購入時手数料(税込)をご負担いただきますので、100万円全額が当該ファンドの購入金額となるものではありません。

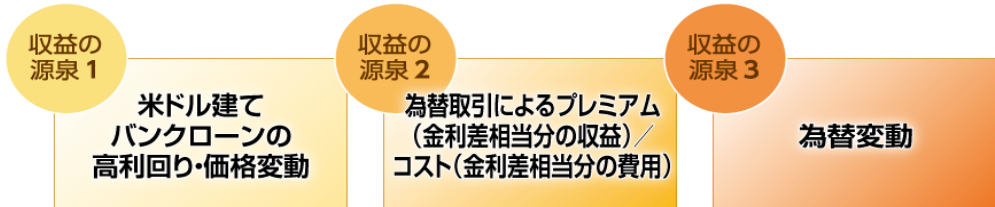
[口数を指定して購入する場合]

例えば、基準価額10,000円(1万口当たり)の時に100万口ご購入いただく場合、購入時手数料=(10,000円÷1万口)×100万口×手数料率(税込)となり、100万円と購入時手数料の合計額をお支払いいただくこととなります。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ



各コースの収益の源泉としては、以下の3つの要素があげられます。



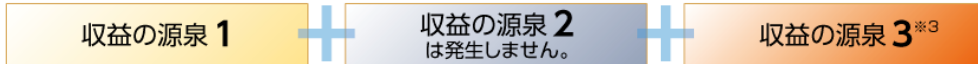
各コースにおける収益の源泉と基準価額の変動要因は以下の通りです。

それぞれの収益源に相応してリスクが内在していることに留意が必要です。

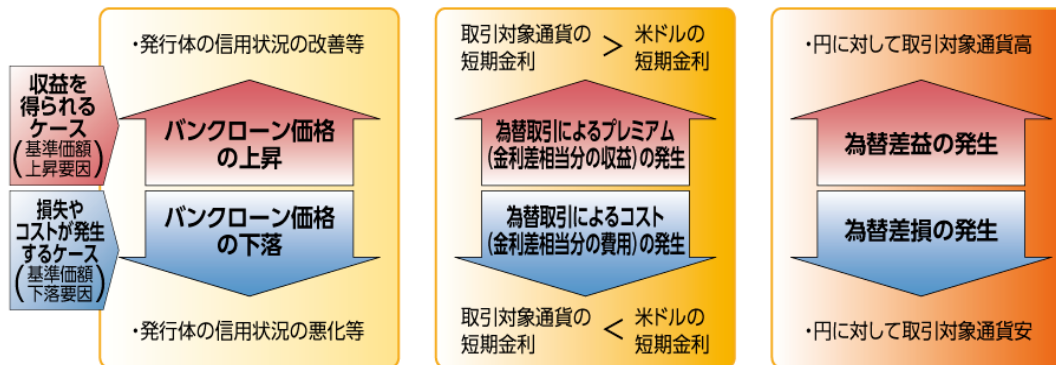
●円コース



●米ドルコース



●豪ドルコース、ブラジルリアルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ロシアルーブルコース



※1 円コースにおいては、対円での為替ヘッジによるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が生じます。

※2 円コースでは、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※3 米ドルコースでは、米ドルが対円で上昇(円安)した場合は為替差益が、米ドルが対円で下落(円高)した場合は為替差損が発生します。

・為替市場の状況によっては、為替ヘッジおよび為替取引によるプレミアム/コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

三菱UFJ 米国バンクロンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】

ファンドの目的・特色

「三菱UFJ 米国バンクロンファンド 通貨選択シリーズ」は、7つの通貨コースとマネープールファンドで構成される投資信託です。7つの通貨コースには、それぞれ「毎月分配型」と「年2回分配型」が、マネープールファンドには「毎月分配型」専用のマネープールファンドAと「年2回分配型」専用のマネープールファンドBがあります。

[毎月分配型グループ]		[年2回分配型グループ]
<円コース>(毎月分配型)	/	<円コース>(年2回分配型)
<米ドルコース>(毎月分配型)	/	<米ドルコース>(年2回分配型)
<豪ドルコース>(毎月分配型)	/	<豪ドルコース>(年2回分配型)
<ブラジルリアルコース>(毎月分配型)	/	<ブラジルリアルコース>(年2回分配型)
<メキシコペソコース>(毎月分配型)	/	<メキシコペソコース>(年2回分配型)
<トルコリラコース>(毎月分配型)	/	<トルコリラコース>(年2回分配型)
<ロシアルーブルコース>(毎月分配型)	/	<ロシアルーブルコース>(年2回分配型)
<マネープールファンドA>	/	<マネープールファンドB>

※販売会社によっては、取り扱わないコースがある場合があります。詳しくは、販売会社にご確認下さい。

「7つの通貨コース」について

■ファンドの目的

米ドル建てのバンクロン(貸付債権)、公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

投資対象 各コースは、米ドル建てのバンクロンを実質的な主要投資対象とします。

- ・主として円建外国投資信託への投資を通じて、米ドル建てのバンクロン、公社債等に実質的な投資を行います。また、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)への投資も行います。
- ・投資する米ドル建てのバンクロン、公社債等は、原則として取得時においてCCC-格相当以上の格付けを取得しているものに限りします。

運用方法 各コースにおいて、投資対象とする円建外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。

為替対応方針 各コースが投資を行う外国投資信託においては、主に米ドル建てのバンクロンに投資を行う一方で、それぞれ以下の為替対応を行います。

- *円コース:原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。
⇒「為替ヘッジによるプレミアム(金利差相当分の収益)またはコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- *米ドルコース:原則として対円での為替ヘッジを行わないため、米ドルの対円での為替変動の影響を大きく受けます。
⇒「為替差益または差損」が生じます。
- *上記以外の各コース:対円での為替ヘッジを行わず、米ドル売り、各コースの対象通貨買いの為替取引を行うため、各コースの対象通貨の対円での為替変動の影響を大きく受けます。
⇒「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)またはコスト(金利差相当分の費用)」、「為替差益または差損」が生じます。
- ・為替取引とは、円コース、米ドルコース以外の各コースにおいて、為替予約取引等*を利用することにより、米ドル売り、各コースの対象通貨買いをを行うことをいいます。為替取引を行うことにより、各コースの対象通貨ベースでのバンクロンへの投資効果を追求します。
*為替取引にあたっては、一部新興国通貨の場合、「NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引」を利用する場合があります。

<為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)について>

- ・各コースの取引対象通貨の短期金利が米ドルの短期金利より高い場合、当該コースでは「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」の獲得が期待できます。一方、各コースの取引対象通貨の短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、当該コースでは「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。円コースにおいては、上記同様、対円での為替ヘッジによるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)が生じます。ただし、為替市場の状況によっては、為替ヘッジおよび為替取引によるプレミアム／コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

<為替の変動>

- ・各コースの基準価額は、為替相場が各コースの対象通貨に対して、円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、円コースでは、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

■ファンドの仕組み

<投資対象ファンド>

- ピムコ バミューダ バンクロン ファンド A - クラス Y JPY(円)(<円コース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド A - クラス Y USD(米ドル)(<米ドルコース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド B - クラス Y AUD(豪ドル)(<豪ドルコース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド B - クラス Y BRL(ブラジルリアル)(<ブラジルリアルコース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド B - クラス Y MXN(メキシコペソ)(<メキシコペソコース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド B - クラス Y TRY(トルコリラ)(<トルコリラコース>が投資します。)
 - ピムコ バミューダ バンクロン ファンド B - クラス Y RUB(ロシアルーブル)(<ロシアルーブルコース>が投資します。)
- マネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】

ファンドの目的・特色

運用の委託先 三菱UFJ国際投信は、各コースにおいて、投資信託証券への運用の指図に関する権限をピムコジャパンリミテッドに委託します。

■分配方針

- ・「毎月分配型」については毎月の決算時(11日(休業日の場合は翌営業日))に、「年2回分配型」については年2回の決算時(4・10月の各11日(休業日の場合は翌営業日))に収益分配を行います。
- ・原則として、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。
- ・分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

「マネープールファンド」について

■ファンドの目的

わが国の公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子等収益の確保をめざします。

■ファンドの特色

投資対象 実質的にわが国の短期公社債等を中心に投資し、利子等収益の確保を図ります。

■ファンドの仕組み

- ・運用は主にマネー・マーケット・マザーファンドへの投資を通じて、わが国の公社債等へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。
- ・「毎月分配型」専用のマネープールファンドAと「年2回分配型」専用のマネープールファンドBがあります。

■分配方針

- ・毎年4・10月の各11日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に収益分配を行います。
- ・原則として、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

「スイッチング」について

- ・次の2つのグループの中でスイッチングができます。
- ・〈毎月分配型グループ〉・・・(「毎月分配型」およびマネープールファンドA)
- ・〈年2回分配型グループ〉・・・(「年2回分配型」およびマネープールファンドB)
- ・〈毎月分配型グループ〉と〈年2回分配型グループ〉の間でスイッチングはできません。
- ・スイッチングの際の購入時手数料は、販売会社が定めるものとします。また、換金するファンドに対して税金がかかります。
- ・販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは、販売会社にご確認ください。
- ・マネープールファンドAの購入は、「毎月分配型」の各コースからのスイッチングの場合に限定します。
- ・また、マネープールファンドBの購入は、「年2回分配型」の各コースからのスイッチングの場合に限定します。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。(次のページに続きます。)

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】

投資リスク

各ファンド(マネープールファンドを除く)

価格変動 リスク	<p>一般に、公社債等の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、各ファンドはその影響を受け組入公社債等の価格の下落は基準価額の下落要因となります。</p>
為替変動 リスク	<p>■円コース 組入外貨建資産については、対円で為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。対円で為替ヘッジを行う場合で円金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替ヘッジによるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分のヘッジコストとならない場合があります。</p> <p>■米ドルコース 組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いませんので、対円で為替変動の影響を大きく受けます。</p> <p>■豪ドルコース ■ブラジルレアルコース ■メキシコペソコース ■トルコリラコース ■ロシアルーブルコース 各ファンドの組入外貨建資産は米ドル建て資産ですが、米ドル売り、各ファンドの対象通貨買いの為替取引を行うため、各ファンドの対象通貨の対円で為替変動の影響を大きく受けます。 為替取引を行う場合で当該通貨の金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分の為替取引によるコストとならない場合があります。</p> <p>為替に関する取引規制等がある場合など、通貨によっては、取引量が少なく需給動向等の影響を受けやすいため、市場で取引もしくは公表されている金利と大きく乖離した金利水準をもとに取引されることがあります。このため、当該通貨の金利が米ドルより高いときであっても、為替取引によるコストが生じる場合があります。</p>
信用 リスク	<p>組入有価証券等(バンクローンを含みます。以下同じ。)の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。</p>
流動性 リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。また、バンクローンは、公社債と比べ、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。</p>
カントリー リスク	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、為替変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。</p>

各ファンドは、格付けの低いバンクローンを投資対象としており、格付けの高い公社債等への投資を行う場合に比べ、信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

マネープールファンド

価格変動 リスク	<p>一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。</p>
信用 リスク	<p>組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。</p>
流動性 リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。</p>

■その他の留意点

各ファンド(マネープールファンドを除く)

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・金融危機の発生等により、バンクローン等の市場流動性が極端に低下した際には、委託会社の判断により、購入・換金の申込みを中止することがあります。

マネープールファンド

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】
手続・手数料等
■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※マネーパールファンドAの購入は、「毎月分配型」からのスイッチングによる場合、マネーパールファンドBの購入は、「年2回分配型」からのスイッチングによる場合に限ります。 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ■各ファンド(マネーパールファンドを除く) ・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	■各ファンド(マネーパールファンドを除く) 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象証券の購入・換金の制限、流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ■マネーパールファンド 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2018年10月11日まで(2013年10月15日設定)
繰上償還	各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、または<毎月分配型グループ>について、<毎月分配型グループ>の受益権の口数を合計した口数が50億口を下回ることとなった場合および<年2回分配型グループ>について、<年2回分配型グループ>の受益権の口数を合計した口数が50億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となる場合があります。 ■各ファンド(マネーパールファンドを除く) 投資対象とする外国投資信託が償還する場合には繰上償還となります。 ■マネーパールファンド マネーパールファンドAは、「毎月分配型」がすべて償還する場合には繰上償還となります。 マネーパールファンドBは、「年2回分配型」がすべて償還する場合には繰上償還となります。
決算日	■「毎月分配型」 毎月11日(休業日の場合は翌営業日) ■「年2回分配型」/マネーパールファンド 毎年4・10月の11日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	■「毎月分配型」 毎月の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。 ■「年2回分配型」/マネーパールファンド 年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ【愛称:スマートスター】

手続・手数料等

■ファンドの費用

各ファンド(マネーボールファンドを除く)

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.24%(税抜 3%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.782%(税抜 年率1.65%)**をかけた額
ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用(信託報酬)はかかりませんので、お客さまが負担する実質的な運用管理費用(信託報酬)は上記と同じです。

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・投資対象とする投資信託証券における諸費用・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

マネーボールファンド

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 各月の最終5営業日における無担保コール翌日物レートの平均値に応じて、
日々の純資産総額に対して、**年率0.594%(税抜 年率0.55%)以内**をかけた額
くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <http://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

ファンド名称:三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社 南都銀行（毎月分配型のみ取扱）	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○			
株式会社 三菱東京UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○

【本資料で使用している指数について】

米国バンクローン指数(=クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス)
 クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックスとは、クレディ・スイス証券が算出する、バンクローンの値動きを表すインデックスです。